

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,027.50	(8.75)
6月前半着	1,024.50	(8.75)
6月後半着	1,022.50	(8.75)
7月前半着	1,021.25	(8.75)
7月後半着	1,020.25	(8.75)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価値

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+ 7.00	+ 4.50
5月後半着	+ 5.63	+ 4.00
6月前半着	+ 3.75	+ 2.63
6月後半着	+ 2.69	+ 1.75

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	108.25
BRENT	120.95

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

週明け 4 日のナフサ C&F JAPAN は 1013 ドルと続伸、クラックスプレッドは小反発。前週末の欧州市場が堅調であったことから、アジア市場もブルなムードで始まった。欧州のファンダメンタルズは逼迫感がさらに強まっており、旺盛な需要が見られて高値で取引されている。期近玉のバックワーデーションの価格差も二桁台に達し、期近玉が極端に不足した状況にある。そのためアジアへの裁定玉の流出の可能性は低下し、アジアの旺盛な需要を満たすことは出来ない可能性が高い。一方、ナフサ価格は原油価格の上昇から再び 1000 ドルを超えており、高値警戒感が強まっている。堅調な原油相場に対して石化製品市場は全く上昇しておらず、石化のマージンが圧迫されている。また、震災による景気後退への懸念もあり、不安感も高まっている。タイトなファンダメンタルズと今後のナフサ需要に対する不安感が交錯したことで、多くのプレーヤーは様子見となり、クラックスプレッドは小動きとなった。本日のアジア市場は、不透明感が強いことから小動きが想定される。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格			国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	円/KL	円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587		
10-Nov	747.36	81.39	42,273		
10-Dec	796.85	83.61	46,305		
10-4Q			43,079	43,101	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202	
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204	
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)	
11-1Q			50,513	52,500	(±0)
11-Apr	981.67	82.45	56,251	(44)	
11-May	1,023.12	84.34	59,971	(489)	
11-Jun	1,032.95	84.36	60,559	(643)	
11-2Q			58,927	60,900	(400)
11-Jul	1,031.29	84.37	60,475	(638)	
11-Aug	1,029.60	84.39	60,391	(626)	
11-Sep	1,028.06	84.42	60,318	(622)	
11-3Q			60,395	62,400	(600)
11-Oct	1,026.56	84.45	60,250	(620)	
11-Nov	1,025.06	84.48	60,184	(618)	
11-Dec	1,023.56	84.51	60,122	(615)	
11-4Q			60,185	62,200	(600)
12-Jan	1,021.98	84.56	60,060	(612)	
12-Feb	1,019.96	84.61	59,976	(604)	
12-Mar	1,017.10	84.66	59,843	(577)	
12-1Q			59,960	62,000	(600)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2500 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は上昇が想定されるうえ、為替通関レートも円安が進んでいることから、MOF 評価値は続伸することが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 400 円高の 6 万 0900 円の評価値。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN 為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	108.47	(0.53)
	JUN	109.05	(0.55)
ICE / BRENT	MAY	121.06	(2.36)
	JUN	120.66	(2.25)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	316.88	(1.75)
NYMEX / Heating Oil	MAY	317.14	(3.69)
ICE / Gas OIL	APR	1,008.75	(8.25)

[マーケットコメント]

週明け4日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに続伸。産油国の政情不安からの供給停滞懸念、米国の景気回復による需要増加期待などを背景に買いが先行した。WTI期近5月限は一時108.78ドルまで上昇し、2008年9月24日以来の高値を付けた。

特段目新しい材料が見当たらないなか、前週末の堅調地合いを引き継ぎ買い優勢の展開となった。リビアの石油都市でカダフィ政権側と反体制派との攻防が続いており、石油供給不安が引き続き買い材料視されている。この他、イエメンでの反政府デモも激化しており、北アフリカおよび中東の地政学的リスクが買い気を増長している。また、前週末に発表された米雇用統計が堅調だったため、米国の先行き経済に対する楽観論が優勢となり、景気回復ペースの加速による石油需要の増加期待が強まったことも支援材料。同時に、株式市場ではNYダウが2008年6月以来の高値を付けたこともあり、リスク選好志向が高まったことも心理的なサポートとなった模様。ブレント期近5月限も強含みの展開となり、一時121ドル台を示現し、2008年8月以来の高値を付けている。石油製品相場も同様、RBOB期近5月限は2008年8月以来、ヒーティングオイル期近5月限は2008年9月以来の高値水準へと上昇した。

トピックス

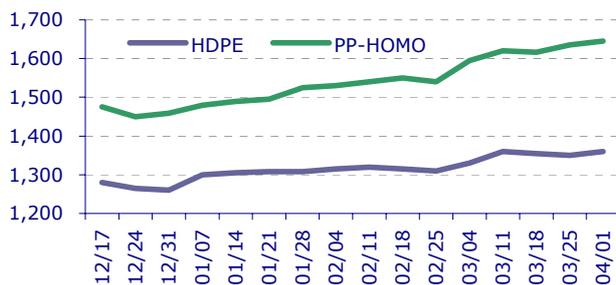
「マンスリー・マーケットレビュー = ポリエチレン/ポリプロピレン」

アジアのポリオレフィン市況は続伸。高密度ポリエチレン(HDPE)はC&F FE ASIA1300ドル台後半へと上昇。ただし、その後は上値重く、方向性の乏しい動きとなっている。ポリプロピレン(PP)は、C&F FE ASIA1600ドルブレイク後も値位置を切り上げている。

HDPE市況は堅調だが、上値の重さは否めない状況。3月上旬には川上市況に連れ高し1350ドルを上抜いた。原料市況高からオファーが高唱えとなるなか、エンドユーザーは高値のオファーに買い気を見せていなかったが、川上の原油相場やナフサ市況、原料エチレン市況が強含みで推移していることで、苦渋の選択から先高を見込んだ買いが入った格好。ただし、実需の伸長は見られておらず、積極的な買いは乏しく成約は限られた。定修要因を背景とした原料供給の減少が懸念される場面も見られたが、スポット購買一巡後は買い気の乏しい商状となった。中国のエンドユーザーは安値で購入した在庫を抱えていることから積極的に買いに動く可能性は低く、むしろ市場のセンチメントは弱気に傾く公算が大きい。

一方のPP市況は上昇基調を継続している。実需が増えている様子はないが、複数の主要PPプラントが定修入りを控えておりことや、川上市況の上昇にもサポートされ、買い先行の流れとなっている。韓国や台湾の域内PPプラントのほか、クウェートのKPICやサウジアラビアのペトロラービグなど中東のPPプラントでも定修が計画されていることで、需要は停滞気味ながらも供給減少を懸念した買いが入った。また、原料プロピレン市況が強含みで推移しており、先行きのコスト高を見込んで、一部の買い手が在庫確保に動いたことも押し上げ要因となった。市場では定修要因をある程度織り込み、さらに潤沢な在庫を背景に中国のエンドユーザーの買い気が乏しいことから、一旦は伸び悩む場面も見られた。しかし、震災により日本の生産能力の4分の1以上が稼働を停止したことで、供給減少が懸念されると同時に、日本の輸入需要が増えるとの見方から、買い優勢の流れを継続している。高値警戒感はあるものの、基調転換するだけの材料は見当たらず、上昇トレンドを継続する可能性が高い。

C&F FE ASIA(ドル/MT)



「ベンゼン 4月 ACP、1150 ドル = JX 日鉱日石エネルギー」

JX日鉱日石エネルギーは1日、大手需要家との交渉の結果、ベンゼンの4月契約価格(ACP、Asian Contract Price)を前月比40ドル安の1150ドル/MTで決定した。国内価格換算想定値は101.5円/kg。誘導品装置のトラブル停止や定修による需要減を受け米国市況が下落し、アジアのベンゼンスポット価格も米国に連れて下落したことが背景。

(単位:ドル/トン)

Apr-10	May-10	Jun-10	Jul-10	Aug-10	Sep-10	Oct-10	Nov-10	Dec-10	Jan-11	Feb-11	Mar-11	Apr-11
980	995	845	790	830	850	870	950	930	1,030	1,130	1,190	1,150

(出所: JX日鉱日石エネルギー)

「合成ラテックス値上げへ = 日本ゼオン」

日本ゼオンは1日、合成ラテックスの販売価格を改定することを明らかにした。対象品目と改定幅は、SBラテックスがプラス32円/kg、NBRラテックスがプラス30円/kg、アクリルラテックスがプラス55円/kg、VPラテックスがプラス42円/kgで、改定期間は4月21日納入分より。モノマー等の原料価格高騰により、製造コスト低減の自助努力にもかかわらず、各製品が採算的に極めて厳しい状況になり、製品価格の改定に踏み切らざるを得ないと判断した。

Daily Market Report

「エラストマー製品値上げへ = 三井化学」

三井化学は、エラストマー製品全 5 製品について値上げすることを明らかにした。値上げ幅は、国内がプラス 19 円/kg 以上、海外が 230 ドル/トン以上で、実施時期は 4 月 15 日納入分から。今年 1 月にも値上げを打ち出したが、エラストマー製品の主原料であるナフサ価格はその後も上昇しており、コストダウン等に懸命に取り組むも、自助努力では到底吸収できず採算が急速に悪化していることから、値上げせざるを得ないと判断した。

「アクリル全製品値上げへ = 東亜合成」

東亜合成は、アクリル全製品について値上げすることを明らかにした。対象品目と値上げ幅は、アクリル酸がプラス 14 円/kg 以上、アクリル酸エステルがプラス 14 円/kg 以上、特殊エステルがプラス 14 円/kg 以上、ポリマー製品がプラス 20 円/kg 以上、特殊モノマー・オリゴマーなどアロニクス製品がプラス 20 円/kg 以上で、改定時期は 4 月 10 日出荷分より。原料価格の高騰に伴いアクリル関連事業の採算が悪化しており、採算是正のためにも値上げせざるを得ないと判断した。

「合成ゴムおよび熱可塑性エラストマー等値上げへ = 旭化成ケミカルズ」

旭化成ケミカルズは 4 日、合成ゴムおよび熱可塑性エラストマー等の価格改定を実施することを明らかにした。改定幅は、BR がプラス 35 円/kg、SBR がプラス 30 円/kg、スチレン系特殊透明樹脂がプラス 30 円/kg、スチレン系熱可塑性エラストマーがプラス 35 円/kg で、価格改定時期は全製品で 4 月 21 日出荷分より。原料価格が想定を超えた高値で推移したことにより、各製品の採算が悪化しており、自助努力の限界を超えるものとなったため、価格改定に至った。

「プレート関連製品値上げへ = 住友ベークライト」

住友ベークライトは 4 日、プレート関連製品全般の価格改定を実施することを明らかにした。対象製品は、塩化ビニル樹脂関連製品、ポリカーボネート樹脂関連製品、その他樹脂関連製品 (PET 樹脂製品、ABS 樹脂製品、PS 樹脂製品など) で、改定幅はプラス 10%、実施時期は 4 月 21 日出荷分より。昨今の基礎原料、中間原料の度重なる高騰を受け、プレート製品の製造コストも大きく上昇している。コスト上昇分を吸収すべく努力をするも、単独の合理化努力では吸収できない状況となっており、価格改定をせざるを得ないと判断した。

「MAA プラント新設 = 三菱レイヨン」

三菱レイヨンは 1 日、グループ会社ルーサイト・インターナショナルが米テキサス州ボーモント工場においてメタクリル酸 (MAA) 設備を新設することを明らかにした。新設される MAA 設備の生産能力は 2 万 3000 トン/年で、2011 年 7 月に着工し 2012 年第 4 四半期の稼働を予定している。投資額は 3620 万ドル (約 31 億円)。新興国の経済成長を背景に、中国を中心とするアジアをはじめ、北米および南米でも MAA は逼迫した状態が続いており、今後も需要増加は続くことが予想されるため、これに対応すべく米国地域に MAA の供給拠点を建設することを決めた。

「1-ヘキセン製造プラントの営業運転を開始 = 三井化学」

三井化学は 4 日、市原工場内に新設した 1-ヘキセン製造プラントの営業運転を開始したことを明らかにした。中東の安価なエチレン系製品の大量流入による競争激化に備え、対抗策として 5 年以上前からエチレン系製品の付加価値化を推進し、市原工場においてさらなる供給過剰懸念のあるエチレングリコール (EG) を生産する EOG プラントを 2009 年 7 月に停止し、75 億円を投じて 4 月 1 日の営業運転を目指してより付加価値な 1-ヘキセン製造プラント (生産能力=3 万トン/年) を新設していた。1-ヘキセンは、HAO-LLDPE や高密度ポリエチレン (HDPE) の副原料として使用され、全世界で 65 万トン程度使用されており、年率 6-7% の成長が見込まれている。

「2 月の韓国アロマティクスおよびスチレンモノマー輸出」

韓国の 2011 年 2 月のアロマティクスおよびスチレンモノマー輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量TOP3		
				国	数量 (mt)	FOB KOREA
ベンゼン	111,546	119,123,401	1,068	米国	69,523	1,085
前月比	▼4,347	1,397,404	52	スペイン	14,892	1,027
前年同月比	▼16,137	▼5,312,827	93	オランダ	8,861	1,127
トルエン	78,748	75,329,781	957	中国	50,446	952
前月比	▼1,347	879,634	27	台湾	6,915	959
前年同月比	13,548	19,314,666	97	インド	6,631	966
オルソキシレン	4,901	6,240,827	1,273	中国	4,901	1,273
前月比	▼5,550	▼6,304,084	73	—	—	—
前年同月比	▼5,747	▼5,477,129	173	—	—	—
混合キシレン	54,488	54,640,988	1,003	中国	31,067	1,005
前月比	▼13,714	▼12,404,692	20	タイ	6,949	1,007
前年同月比	▼5,541	3,213,379	146	台湾	5,085	1,008
パラキシレン	100,286	156,582,936	1,561	中国	54,217	1,555
前月比	10,162	29,532,815	152	台湾	46,070	1,569
前年同月比	10,190	61,930,735	511	—	—	—
スチレンモノマー	120,393	164,317,522	1,365	中国	104,310	1,364
前月比	24,507	39,386,641	62	香港	7,050	1,357
前年同月比	15,150	30,949,008	98	台湾	4,952	1,370

(出所:韓国貿易協会)

本レポートに掲載されている情報は、時間の経過または様々な後発事象によって予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。なお、掲載された情報は信頼できると判断した情報源に基づき作成したものです。株式会社アメリクス・エナジー・コム(以下、弊社)はこの完全性や正確性に関する責任を負いません。また、本レポートに示した見解および予測は必ずしも適切かつ妥当なものとは限らず、本レポート作成日における弊社の判断です。本レポートに掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属いたします。